

## ●巻頭言

# 太陽光発電がきらわれる!?

## —生物多様性との調和という視点

昨年9月に山梨・勝沼へ旅行した時のこと。私は異様な光景を目にしました。コミュニティバスで山の方に入っていくと、山の急斜面に並べられた太陽光発電パネルが目飛び込んできたのです。(写真参照)こうしたメガソーラー乱開発が進められていく中で、太陽光発電そのものを嫌う主張が出てきました。

\* \* \*

そもそも2012年7月にスタートした全量固定価格買取制度(FIT)は、再生可能エネルギーによって発電された電気を電力会社が固定価格で買い取るもので、太陽光発電なら42円/kWhと通常の電気料金の倍近くの価格でした。

足温ネットのような環境NPOでも資金を集めることができれば、売電収入から返済できるため、市民発電プロジェクト「えど・そら」を立ち上げましたが、民間企業にとっては良いもうけ話でした。日当たりの良い土地にメガソーラーを建設すれば、莫大な売電収入が得られるからです。これに預貯金がだぶついている金融機関が飛びつき、土地の購入にどんどん融資することで、メガソーラー狂騒曲とでもいうべき乱開発が始まってきました。

メガソーラー乱開発問題を初めて耳にしたのは、長野県諏訪市での事案です。電力小売り自由化で、新たに参入した(株)Loopによるメガソーラー「ソーラーパーク四賀」建設計画に地元住民による反対運動が起きていました。霧ヶ峰高原近くの188haに89MWの太陽光

発電パネルを設置することで、計画地周辺の水源や自然環境への影響、下流域への土石流の危険性が増すというものです。反対運動の動きは燎原の火のごとく広がり、昨年10月には茅野市で「全国メガソーラー問題シンポジウム」が、今年1月には都内で「全国メガソーラー問題中央集会」が開催されました。

私が気になったのは、全国メガソーラー問題シンポジウムで配られたレジュメです。

\* \* \*

「メガソーラーをやっつけろ」と書かれたレジュメには、太陽光発電の「幻想」として、①ソーラー発電は石油火力発電よりも石油を使う、②ソーラー発電は石油火力発電よりCO<sub>2</sub>を出す、③ソーラー発電の推進は原発推進の口実づくり、と書かれていました。書いたのは、梶山正三弁護士(駒ヶ岳法律事務所)です。東京工業大学大学院博士課程卒の理学博士で、東京都公害研究所を経て弁護士となり、廃棄物訴訟、環境訴訟、公共事業関連訴訟に数多く関わっています。しかし、メガソーラーに対する梶山弁護士の主張は「坊主憎けりや袈裟まで憎い」ならぬ「メガソーラー憎けりや太陽光発電まで憎い」です。

問題は、梶山弁護士の主張が正しいか否かではなく、太陽光発電に対する誤った認識が広がり、それを

正しいと信じる人が増えることです。発電事業を行う市民の中にも危機感を持つべきとの意見が出てきました。

\* \* \*

2月に市民電力連絡会の総会で記念講演を行った、千葉商科大学名誉教授の鮎川ゆりかさんは、原子力資料情報室やWWFで活動された経歴を持ち、千葉商科大学で使用する電力量相当分を大学が建設したメガソーラーでまかなう「RE100」の実現に尽力された方です。

鮎川さんは、自然エネルギーを進める市民の側が反対運動にきちんと向き合ってこなかった点を踏まえつつ、今後は立地に当たって生物多様性の視点を持つ必要があると指摘されました。元々地球環境を良くするために進められてきた自然エネルギー。反対運動が突きつける課題にどう向き合っていくか、真剣に考える必要があります。

(文責:山崎求博 事務局長)



# ● 低炭素・脱原発の社会をめざして 2019 年度定時総会 & 江戸川区環境フェア

毎年6月は、足温ネットがバタバタする時期です。法人総会と江戸川区環境フェアがあるからです。昨年は、環境フェアの翌日に法人総会と記念イベントを行い大変でしたが、今年は1週間ずらしての開催となりました。

## ●2019 年度定時総会

5月25日(土)11時30分から、タワーホール船堀で2019年度定時総会を開催しました。まず、定足数の確認が行われ、議決権を持つ運営会員(法人社員)11名中、出席8名・委任状1名で定款上の定足数4名を超えることから総会の成立が確認されました。

議案については、第1号議案「2018年度事業報告」から第6号議案「2019～2020年度役員(案)」まで原案通り承認されました。

事業報告では、視察や講演依頼が例年の半数にとどまったことが報告され、人々の意識の低下が指摘されました。また、事業計画(案)に対して、発電事業を中心に様々な意見が出されました。

- ・市民立発電所1号機で表示と実際の買取額に差異が出ており検証が必要

- ・2019年問題をひろく周知するため資料を作成しては

- ・自立運転モードの訓練を実施したい
- ・えどそら3号機に充電スタンドを設置するなど自治会の防災に役立てたい

また、第5号議案として「活動手当支給規定に関する件」が承認され、活動に従事した理事や運営会員に手当を支給することになりました。なお、役員については全員再任となりました。氏名は以下のとおりです。

<役員>

- ・理事 奈良 由貴(代表理事)

- 山崎 求博(事務局長)

- 大河内 秀人

- 柳澤 一郎

- 藤居 阿紀子

- ・監事 館岡 景子



写真左:ブース出展の様子/写真右上:ソーラーフードドライヤーでラスク作り  
写真右下:みんな電力による電力自由化ミニセミナー

## ●江戸川区環境フェア 2019

6月1日(土)、江戸川区総合文化センターで開催された江戸川区環境フェアに出展してきました。今年は「エネルギーの明日を考える」をテーマに、自然エネルギー機器の展示や電力自由化ミニセミナーの開催、活動紹介を行いました。隣は東京電力です。

ブースの前に、太陽熱を利用したソーラークッカーやソーラーフードドライヤーを展示し、沸かしたお湯やパンを乾燥したラスクを、来場者に提供することで、自然エネルギーを体感してもらおうとしていました。しかし、当日はあいにくの曇り空、思うような高温が得られません。午後になり、日差しが出てくるとソーラークッカーもようやく70℃ぐらいになり、ドライヤーの中にあるパンも乾いてきました。やかんから湯気が出る様子に子どもたちは興味津々、乾いたパンを食べてもらおうとサクサク感に驚いていました。

大人気だったのが、足温ネットの活動を応援いただいているパタゴニア丸の

内ストアが用意してくれたプロビジョンズ(できるだけ環境に負荷をかけない方法で作られた食品)の試食です。ストアからは伊藤さん、三田村さんが参加し、砂糖を使っていないフルーツバー、豆類等のスープのほか、多年草を原料としたビールの試飲も…。フルーツバーを美味しく食べてくれる子どもの様子が印象的でした。

市民発電プロジェクト「えど・そら」の3発電所から電力を供給している「みんな電力株式会社」からは、伊藤さん、上山さんに来ていただき、電力自由化ミニセミナーを開催しました。

パタゴニアのプロビジョンズ試食付きの整理券を配布し、参加を呼びかけましたが、思うように集まりませんでした。来場者が次々と通り過ぎ、立ち寄っても短時間にとどまる中で、どうやって関心を持ってもらうか課題が残りました。来年に向けた課題としたいと思います。

(文責:山崎求博 事務局長)



## ● 2019年総会記念ミニシンポジウム

# 電気代をダイエットする しくみを作る！

～省エネ家電に買い替えて、これからは備えよう～

5月25日(土)13時30分からタワーホール船堀で、総会記念ミニシンポジウム「電気代をダイエットするしくみを作る！」を開催しました。

昨年は、元長野県政策企画幹として野心的なエネルギー政策の立案に携わってこられた田中信一郎さんから、地域のエネルギー政策づくりについて学びました。今年は、かつて足温ネットでも取り組んだ省エネ家電への買い替えをテーマに取り上げました。省エネ家電の買い替え研究の第一人者による基調講演に続き、市民や行政の立場からパネルディスカッションを行いました。

今回、ミニシンポジウムに参加された佐藤暁子さんから原稿を寄せていただいたので、以下にご紹介させていただきます。

## ●ミニシンポジウムに参加して

基調講演を行った磐田朋子さん(芝浦工大准教授)からのお話は、購入して10年ほどの冷蔵庫は消費電力が高いので買い替えを推進したい、という話題で、3つのポイントを示されました。

一つ目は、冷蔵庫を買い替える際の初期費用を低く抑えるなど、消費者の「もったいない」を取り払えるようなイン



パクトのあるしくみ作りと、それを周知させること。

二つ目は、電力の供給する側、家電製品を売る側にもメリットのある、持続的なしくみにすること。

三つ目は、国全体や地方自治体など、より多くの人に向けたしくみ作りです。国や地方自治体のお墨付きですよ、怪しい活動ではないですよ、ということ。

以上、3点について自治体での事例や静岡ガスでの実践例を挙げながらお話しいただきました。

後半のパネルディスカッションでは3名のパネリストから発言がありました。

1人目の藤川まゆみさんは、代表を務めるNPO法人上田市民エネルギーの取り組みが、自治体での取り組みで成功を収めていることをお話しされました。「まちで一番古い冷蔵庫コンテスト」は、一番古い冷蔵庫を使う家庭に新しい省エネ冷蔵庫をプレゼントするというものです。敷居が低く、かつ積極的に取り組み、年齢や性別を問わずに一定数の興味を引くことができそうです。省エネに興味を持つきっかけになるでしょう。ぜひ全国各地で広まって欲しいと思いました。

2人目の登壇者、足温ネット代表の奈良由貴さんは、江戸川区での冷蔵庫の買い替えに融資する取り組みの実践や、省エネゲームワークショップを通じた省エネ周知活動を紹介しました。冷蔵庫の性能偽装問題では、買い替えの取り組みで実際に計測したデータをもとに、国のJIS規格を変えさせたことに驚かされました。

3人目の登壇者、東京都環境局地域エネルギー課長の長谷川徳慶さんからは、ここ数年で東京都が実際に行った政策や、今秋に始まる省エネ家電購入エコポ



パネルディスカッションの様子

イント制度についてご説明くださいました。白熱電球の回収およびLED電球配布の取り組みについては、私は全く知りませんでした。政策へのお金のかけ方、周知能力や方法には色々あるのだなと改めて感じました。

こうして立場の違う登壇者の意見交換では、周知活動がうまくいかないことには何も始まらないという流れになりました。しくみ作りの前に、どう人々の意識に働きかけるかが課題というわけです。若い人の注意を引くには、かわいい、カッコいい、イケてる！と思ってもらえるような省エネ活動が必要でしょう。「ダサくない」ことは結構重要だと思います。ミュージシャンが率先して慈善活動をしていると、それだけで影響力がありますよね。やりかたは色々あると思います。

「省エネを推進したい」という根本的な共通点があるわけですから、ぜひ横のつながりを大切にしたいです。データ集めと分析能力を持った方がいて、実際の生活や地域に根づいたものに生かしていくために地域密着型の活動をしている方がいて、公的なしくみにつなげられる立場の方もいます。プラスαで必要な人材がどんな分野の人が、もう一目瞭然かと思われれます。

(佐藤暁子さん)

# まちで一番古い 冷蔵庫 コンテスト

上小地域で1番古い冷蔵庫を探せ!

もしかして、あなたの冷蔵庫、10年以上使っていませんか？  
長年使ってくれた冷蔵庫に感謝して、優勝者に新品の冷蔵庫をプレゼントします！

冷蔵庫は1日24時間365日動き続ける働きもの。家庭内で最も電気を使う電化製品です。最新の省エネ冷蔵庫は10年前と比べて約半分の電気消費量です。

応募期間：2016年10月5日まで必着  
応募方法：裏面をご覧ください  
主催：NPO法人上田市民エネルギー（一社）NECO  
お問合せ：一社NECO 0268-75-5896  
このイベントは2016年度の独立行政法人経済再生委員会地球環境推進部の助成を受けて開催されます。

※平成31年度「東京都予算案の概要」より

### 事業内容

**効果**  
 [31年度] → CO<sub>2</sub>削減効果：年間 5.8万トン、光熱費削減効果：年額 28.3億円  
 [2年間] → " : 年間 14万トン、 " : 年額 69.3億円  
 (31・32年度)

東京都 出えん 45億円 → 環境公社 → 公券・ポイント原資・運営費補助 → 運営事務局 → ②ポイント申請 (リサイクル券、レシート等) → 都民 ①対象家電等の購入 → 家電店等 → ③金券送付 (商品券 + LED割引券 1,000円等) → 様々な接点の機会を捉えて省エネアドバイスを実施

### ■対象機器と付与ポイント数

エアコン (統一省エネラベル★4以上)		冷蔵庫 (統一省エネラベル★5)		高効率給湯器 (Iコゾース、Iコート等)
冷房能力 2.2kW以下	12,000	定格内容積 250ℓ以上	11,000	10,000
2.4~2.8kW	15,000	251~500ℓ	13,000	
3.6kW以上	19,000	501ℓ以上	21,000	

左:古い冷蔵庫コンテストちらし/右:東京都省エネ家電ポイントの概要

## ●「しくみ」と「しかけ」

佐藤さんが指摘されたことは大変重要だと思えます。人々の参加意識を刺激するしくみが作るには、もっと研究者(学)とNPO(民)、行政(公)がつながる方が良いというわけです。そうした意味で、今回のミニシンポジウムは意義があったと思えます。

足温ネットが実践した省エネ家電買い替えの融資では、買い替え後に節電分を無利子で融資し、毎年返済していくことにしましたが、残念ながら融資した方が転居などで連絡が取れなくなり貸し倒れが発生しました。一方、磐田准教授の発表にあった静岡ガスの事例では、買い替え後の省エネ家電をリースすることにして、静岡ガスの子会社であるリース会社が節電相当額の返済を管理する手法をとりました。このしくみは、現在でも静

岡ガスのサービスとして使われているそうです。

こうしたしくみを実施していくには、人々の意識を引きつける「しかけ」が必要です。

そうした意味で、上田市民エネルギーが企画・実施した古い冷蔵庫コンテストはとても魅力あるしかけだと思います。2016年に実施されたコンテストには、104件の応募があり、最も古い冷蔵庫は1989年製だったそうです。

世帯数が数万の上田市に対して、江戸川区は32万世帯67万人の区民がいますから、区民全員を対象にするのは無理がありそうです。地域で分けるとか範囲を限定した方が良いかもしれません。以前、生活クラブ生協を母体とする電力小売り会社生活クラブエナジーの方と懇談

した時に、このしかけを提案しました。組合員限定なら、対象者をもっと限定することができます。その分、社会的インパクトは小さくなりますが。

また、しくみが注目されるには、きっかけも必要です。今秋から東京都が始める省エネ家電買い替えエコポイント制度は、まさにそれに当たります。こうした制度を広めるためにNPOは役立てると思いますし、そこで得られるデータは研究者にとって大きな意味を持つでしょう。もし、こうした連携が強まれば、次のしくみ作りにも寄与すると思います。こうした主体どうしをつなぐ役割を足温ネットで果たせたらと思いますし、それが佐藤さんの指摘した「必要な人材」なのだと感じました。

(文責:山崎求博 事務局長)

## 参議院議員選挙 各党選挙公約の気候変動・エネルギー政策の分析

気候ネットワークは7月4日、参議院議員選挙の各党マニフェスト(選挙公約)をパリ協定の遵守と脱炭素社会の実現、野心的な温室効果ガス削減目標の設定、脱石炭火力発電の推進、再生可能エネルギーの導入と野心的目標の設定、脱原発の実現の5つの点について総合得点を発表した。

その結果、現行政策を維持する与党とエネルギーシフトに向かう政策を打ち出す野党とでは大きく差が開いた。そして具体的目標値を掲げた立憲民主党が19点と最も高く、次いで国民民主党(16点)、日本共産党(13点)、社会民主党(10点)となっている。

政党名	パリ協定削減目標	脱石炭火力発電の推進	再エネの導入と目標	脱原発の実現	得点
自由民主党	△	×	△	×	2
公明党	△	×	△	△	5
立憲民主党	○	◎	◎	◎	19
国民民主党	○	△	◎	○	15
日本共産党	○	—	◎	◎	14
日本維新の会	△	—	—	△	4
社会民主党	—	—	◎	◎	10
れいわ新選組	—	×	△	◎	6

記号の読み方 ◎ (5点) 具体的な記載があり、なおかつ意欲的な内容・目標となっている政策  
 ○ (4点) 記載があるが、現状からの向上はあるが、意欲的とは言いがたい政策  
 △ (2点) 記載があるが、内容・目標は現状追認の政策  
 × (-1点) 記載はあるが、時代に逆行する政策  
 — (0点) 記載がない



## ● 足温ネットとつながるヒト・モノ・トコロ

# 市民の連携で持続可能な地域をつくる 環境まちづくり NPO エコメッセ

足温ネットの活動は、様々な人や団体、場所に支えられています。そこで、そうしたヒト・モノ・トコロを自己紹介していただきます。第4回は、都内でリユースショップを展開する「環境まちづくりNPOエコメッセ」です。江戸川区にある2店舗では、売り上げの一部を地域の環境課題解決のために積み立てており、市民立第二発電所の発電量モニター設置では設置費用を出していただきました。店舗運営委員会の藤居さんからご紹介いただきます。

「環境まちづくりNPOエコメッセ」は、自然と共生し、環境に負荷をかけない循環型社会をつくり出すNPOです。都内13の自治体に16の店舗を構え、「水と緑を守る・増やす」ことや「自然エネルギーの推進・普及」などの環境活動に寄与することを目的とした「リユースショップ」を運営しています。江戸川区には平井と江戸川にお店があり、どちらも「元気力発電所」という店名で運営しています。店舗ごとの売り上げの中から「環境応援金」(地域活動費)という名称で配分された資金を、地域で市民が作る太陽光発電所に寄付しています。地域に暮らす市民の力で「脱！原子力発電」を実行することから、「元気力発電所」と名乗っているのですが、なかなかこの名前を覚えていただけないのが残念です…

江戸川区では、NPO法人「ほっとコミュニティえどがわ」が設立した高齢者共同住宅「ほっと館」屋上に設置した「市民立第2発電所」の太陽光パネルの発電量掲示板設置、同じく「ほっと館」の屋上に設置した「えどそら 2号機」や直近では東小松川の泉福寺本堂の太陽光パネル設置にも協力しました。

このような理念を掲げて運営している「元気力発電所」は、みなさんからの寄付によって成り立っています。毎日、さまざまな方々が、大切に使用していた洋服、靴やバッグ、雑貨類などを届けてくださいます。少しでも環境活動の役に立てるならと賛同して下さる方々もありますが、誰もが気軽に立ち寄れる、地域の居場所であることも大切なことだと考えています。お客様との会話は、地域のおいしいお店情報から介護の悩みまで多岐にわたります。

また、寄付していただいた品物の他に、純石けんや生ごみリサイクル発酵促進剤、古着をリサイクルした軍手、福島の方々が避難生活でつくられた「布ぞうり」なども販売。平井店では、障害者通所施設「さくらの家」のみなさんの手づくり品も展示・販売しています。まさに、「エコメッセ」は「環境・福祉」融合型の取り組みと言えるかもしれません。

「足温ネット」のみなさんとは、これまでに都留市の「水力発電」や匝瑳市の「ソ

ーラーシェアリング」の見学会や学習会の企画立案から実施を共に行い、江戸川の運営委員会にもメンバーとして参加していただいています。私たちにとって、環境活動のパートナーであり知恵袋でもある存在です。今後も、共にめざす社会の在り方を確認しながら、さらに連携をすすめていきたいと思っています。

(文責：藤居阿紀子さん)



### ●江戸川店

TEL&FAX:03-3680-7111

営業時間 月～土 11時～18時



### ●平井店

TEL/FAX 03-5875-0097

営業時間 月～土 11時～18時



写真右：江戸川店  
写真左：平井店



# えど・そら 便り

足温ネットでは、2013年から太陽光発電による電力を固定価格で電力会社に供給する売電事業に参入しました。愛称は「えど・そら」と言い、1号機は10.52kW、2号機は11.58kW、3号機は22kWの発電出力です。その発電事業などについて報告します。

## ●これまでの発電実績

今年2回目のえど・そら便りです。今回は1号、2号、3号機の2019年5月までの実績について報告します。

上図は発電状況です。表に5月までの月平均1日当たり発電量を示します。1号2号3号ともに予測と比べ多少の出入りがありますが、極端な落ち込みもなく、順調に発電していることがわかります。下図は1～3号機各々の積算売電金額(経費等を除く)です。1号、2号はほぼ6年、3号は2年半の実績です。3号は2年半なので直線が下に折れていますが、何れも順調に積み上がっていることがわかります。

(文責:柳澤一郎 理事)

## ●インタビューや取材相次ぐ

6月28日、みんな電力(株)のスタッフが事務所に来訪され、顔の見える発電所のひとつとして、紹介記事を掲載するためのインタビューを受けました。

お越しいただいたのは、社長室プロジェクト推進チームの伊藤さん、事業本部パワーイノベーション部の高橋さん、上山さんです。足温ネットからは、奈良、柳澤、山崎の3名で対応しました。

インタビューでは、足温ネットの成り立ち、売電先にみんな電力を選んだ理由、みんな電力への要望や今後の展望、発電所ツアー内容など多岐にわたりました。

	1日当たり発電量 kWh/日					
	えどそら1号		えどそら2号		えどそら3号	
	予測	実績	予測	実績	予測	実績
2018年1月	27.0	27.4	32.2	41.1	74.8	66.1
2018年2月	29.5	31.7	33.9	45.0	82.7	93.8
2018年3月	32.5	32.6	34.4	41.4	90.0	95.6
2018年4月	38.0	39.5	39.2	53.2	106.5	126.5
2018年5月	42.6	40.0	42.9	54.1	119.4	133.4
2018年6月	35.4	33.9	34.3	40.7	99.1	103.8
2018年7月	39.0	39.3	38.0	57.2	109.2	147.9
2018年8月	42.6	38.3	42.3	48.5	119.4	122.3
2018年9月	31.3	34.1	32.7	38.5	87.5	95.0
2018年10月	25.2	21.6	27.3	31.0	70.5	69.1
2018年11月	23.2	27.5	26.4	35.2	64.9	71.4
2018年12月	24.3	20.3	29.5	28.3	67.9	53.0
2019年1月	27.0	26.7	32.2	43.4	74.8	74.8
2019年2月	29.5	27.1	33.9	38.0	82.7	81.0
2019年3月	32.5	34.6	34.4	43.2	90.0	99.2
2019年4月	38.0	40.3	39.2	52.3	106.5	122.5
2019年5月	42.6	38.5	42.9	51.1	119.4	126.7

みんな電力への要望では、需要家との意見交換の機会を持ちたい旨を伝え、今後の展望として、隣家への電力販売、地域の財産として市民共同発電所を位置付けたいことなどを伝えました。

発電所ツアーについては、12～1月の間に、えど・そら発電所と松江の家の見学&意見交換、昼食をはさんで、ミニソーラークッカーづくり等のWSを行うとの方向性で進めることになりました。

また、ホームページを見たという朝日新聞経済部の伊藤記者から電話取材を受けました。FIT 価格の低下や制度の終了に 対してどう考えているか、そうした中で市民共同発電所を建設する動きがあるか、とのことでした。

山崎からは、FIT 制度が終了したとしても様々な工夫で発電所は建設できるので、そんなに落胆していないこと、市民共同発電所の動きとして、「あびこ自

然エネルギー」や「やちよ未来エネルギー」を紹介しました。

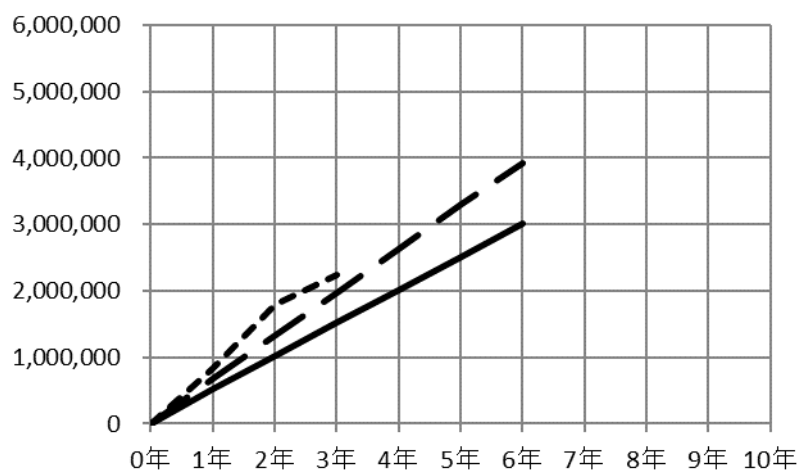
そして、地域防災計画に市民共同発電所(自立運転モード)を位置たいとの話に関心を持っていただき、北海道のブラックアウトから1年経つ時点で記事にしたいとお話を受けました。

最後にお知らせです。東京都生協連のシンクタンク「一般社団法人地域生活研究所」の研究誌『まちと暮らし研究』に寄稿させていただきました。特集が「気候変動対策を考える」ということで、足温ネットの活動の歩みについて書かせていただきました。

お読みになりたい方は、地域生活研究所までご連絡ください。頒価 500 円(送料別)です。

<http://www.chiikiseikatsu.org>

(文責:山崎求博 事務局長)





# 環境・エネルギー 8行ニュース

※報道記事を抜粋したものです

## ●台湾、全原発運転停止計画見直さず

(2019.2.1 NHK)

台湾の蔡英文政権は、去年の住民投票の結果、2025年までにすべての原子力発電所の運転を停止する期限を定めた法律条項の廃止が決まり計画の見直しを迫られたが、原発を立地する自治体の反対などから運転期間の延長は不可能だとして、脱原発に向けた計画を見直さない方針を明らかにした。2025年5月までに順次、運転を停止していく。

## ●関西、原発3基の再稼働延期

(2019.2.4 日経新聞)

関西電力は4日、40年超運転のための安全対策工事を進めている福井県内の原子力発電所3基について工事期間を延長すると発表した。原子炉格納容器の安全対策工事に使っていたクレーンが倒れた事故による工事の中断などが理由でこれに伴い再稼働時期も延期となる。関西の収支への影響は計約1080億円に上る見通しだ。

## ●ヒマラヤの氷河、温暖化で2/3が消滅？

(2019.2.6 時事通信)

ネパールの国際総合山岳開発センター(ICIMOD)は、温室効果ガス排出量が大幅に削減されない限り、ヒマラヤ山脈の氷河は2100年までに2/3が消滅する恐れがあるとする報告書が4日発表した。「パリ協定」が掲げた世界の平均気温上昇幅を1.5度に抑える目標が達成できても、ヒマラヤ山脈の氷河の1/3が消滅する恐れがあるという。

## ●九電、玄海2号機廃炉を決定

(2019.2.13 日経新聞)

九州電力は13日、存廃を検討している玄海原子力発電所2号機(佐賀県玄海町・出力55.9万kW)を廃炉にすることを決めた。同日午後、地元自治体に報告する。2号機は2011年に定期検査入りしたまま停止しているが、稼働から40年の運転期限が21年3月に迫る。新規制基準のテロ対策施設を建設するスペースを十分確保できないことなどから判断した。

## ●原発と原爆が結び付いている

(2019.2.15 東京新聞)

経団連の中西会長は14日、運転停止中の中部電力浜岡原発(静岡県御前崎市)を視察した。地元で再稼働への理解が深まっていないとの指摘に「原発と原爆が頭の中で結び付いている人に、この2つが違くと分離して理解してもらうのは難しい」と述べた。また、「気候変動問題への対応や安定したエネルギー源であるかどうかでいったら、ほかに手はない」と強調した。

## ●北海道内の新電力シェア23%で全国一

(2019.2.19 日経新聞)

電力・ガス取引監視等委員会が公表した「電力取引報」11月分によると、北海道内の電力市場における新電力シェア(販売電力量ベース)は23.2%だった。国内平均14.3%を大きく上回り、8カ月連続で全国10地域で最も高かった。本州系新電力が利益率の高い大口顧客を中心に販売攻勢をかけ、大口顧客を中心に新電力への流出が続いている。

## ●処理費用確保に向け 新制度導入へ

(2019.2.25 NHK)

将来的に大量投棄も懸念される太陽光発電の使用済みパネルについて、経産省は処理費用の確保に向けた新たな制度を設けることになった。具体的には発電事業者パネルの処理費用の積み立てを義務づけている今の仕組みを見直し、第三者機関が事業者の収益の中から費用を積み立てて管理できるようにする。年内にも制度の詳細な内容を定める方針。

## ●千葉商大、再生可能エネ100%達成

(2019.2.28 日刊工業新聞)

千葉商科大学は27日、「再生可能エネルギー100%」を達成したと発表した。原科幸彦学長は「他の大学のモデルにしたい」と語った。野田市に出力2880kWの太陽光発電所を所有。キャンパスでは節電を進め消費電力を絞り込み、発電量と一致。再生エネ普及を目指す国際的な活動「自然エネルギー100%プラットフォーム」に国内の大学として初めて登録された。

## ●マンション総会決議は無効

(2019.3.5 産経新聞)

マンションの管理組が総会で、低額の電気供給サービスを一括導入するために、個別の電気契約を解除するよう全住民に義務付けた決議の有効性が争われた訴訟の上告審判決で、最高裁第3小法廷は5日、決議は共用部分の変更や管理にしか認められず、専有部分には及ばないとして「無効」との判断を示した。今後は、一部住民が反対すると導入が難しくなりそうだ。

## ●八千代市の有志が太陽光「市民発電所」

(2019.3.16 東京新聞)

八千代市の市民有志らが、「市民発電所」として高津幼稚園に太陽光パネルを設置する。設置するのは、昨年1月に設立された一般社団法人「やちよ未来エネルギー」(高山敏朗代表理事)。設置費用を賄うためオーナー制度を取り入れ、パネル一枚当たり5万円で販売し、年間2,500円の賃貸料でやちよ未来エネルギーが借り受ける。賃貸期間は20年。

## ●世界で高校生ら「気候スト」

(2019.3.16 しんぶん赤旗)

スウェーデンの高校生グレタ・トゥーンベリさん(16)の呼び掛けに応えた高校生らが15日、気候変動問題で各国政府に早急な対策を求めてストライキを行った。オーストラリアでも15日、各地で高校生らが学校を休み、プラカードを持って街に繰り出した。日本でも、東京都渋谷区で150人が参加。学生らが次々にスピーチして訴え、パレードした。

## ●原発支援へ補助制度案 経産省

(2019.3.23 朝日新聞)

経産省が、原発で発電する電力会社に対する補助制度の創設を検討していることが分かった。温室効果ガス対策を名目に「ゼロエミッション電源」の価値を、原発でつくった電気を買う電力小売業者に費用を負担させるしきみを想定しており、実現すれば消費者や企業が払う電気料金に原発を支える費用が上乗せされることになる。2020年度末までの創設をめざす。

## ●太陽光発電+独自送電網 葛尾新電力

(2019.3.30 河北新報)

福島県葛尾村が出資する自治体新電力「葛尾創生電力」が新年度、村内に電力を独自供給するインフラ整備に着手する。村中心部に自前の送電線を張り巡らせ、太陽光発電を組み合わせた全国でも珍しい試み。計画は村役場の半径1km内に電柱を立てて「自営線」(総延長約4km)を敷設し、「特定送配電事業」として来秋から公共施設や家庭などに供給する。

## ●経団連がエネルギー政策で提言案

(2019.4.6 NHK)

日本のエネルギー政策について経団連がまとめた提言の案が明らかになった。政府に対し、送電線の空き容量を実質的に増やすなど既存設備の活用によって再生可能エネルギーの導入拡大を求める一方で、原発を継続的に活用すべきだとして再稼働や新增設を求めている。運転を原則40年とする今の制度について、プラントが稼働していない期間は除くよう求めている。

## ●日本原子力産業協会が年次大会

(2019.4.12 しんぶん赤旗)

東京都内で9日から開かれた日本原子力産業協会の年次大会で、今井敬会長(経団連名誉会長)は、安倍政権のエネルギー基本計画にある2030年の原発発電比率の目標を達成するため、「今後10年程度で30基程度稼働させる必要がある」「50年を見据えると早期に新增設・リプレース(建て替え)が進むことを期待する」と述べた。

## ●「石炭火力全廃」案後退 産業界反対で

(2019.4.19 東京新聞)

地球温暖化対策の提言をまとめた首相の有識者懇談会の議論で、主要論点の石炭火力発電の廃止に、産業界の代表委員(トヨタ自動車・内山田会長、経団連・中西会長、日本製鉄・進藤会長)が強く反対し、「長期的な全廃」を明記した座長の文案が、最終的に提言は一部委員の主張に沿う形で「依存度を引き下げる」との表現にとどまった。

## ●温暖化の対策案、「原発推進」鮮明

(2019.4.20 朝日新聞)

パリ協定に基づき、政府が国連に提出する長期戦略案が19日わかった。原発について「実用段階にある脱炭素化の選択肢」とし、安全性・経済性・機動性に優れた炉を追求するとの目標を掲げた。政府の有識者懇談会の提言より、原発推進に前のめりな姿勢を鮮明にした。また、具体的な技術例を挙げ、「原子力関連技術のイノベーション促進の観点が重要」とも言及した。

## ●電気料金、家庭向け6%高く

(2019.4.22 日経新聞)

2016年4月の電力小売りの全面自由化から3年たち、家庭向けの料金が19年1月時点で6.9%値上がりしていることが分かった。工場などの法人向けは競争が激しくなり0.5%値下がりした。大手が法人向けの営業で攻勢をかけたとみられる。価格競争や新たなサービスが期待された自由化だが、足元では一般家庭の恩恵が見えづらい状況となっている。

## ●文科省の放射線副読本を回収 野洲市

(2019.4.25 朝日新聞)

文科科学省が全国の小中学校と高校に配布した昨年10月改定の「放射線副読本」を、滋賀県野洲市教育委員会が回収していることが25日、分かった。東京電力福島第一原発事故の被災者への配慮がなされておらず、放射線が安全との印象を受ける記述が多いと判断したという。文科省は「改訂版副読本は有意義な内容となっており、活用してもらいたい」としている。

## ●新電力に切り替えた家庭12%にとどまる

(2019.4.28 NHK)

電力の家庭向け小売自由化から3年余り、大手電力会社から新電力に切り替えた家庭の割合は12%にとどまっている。切り替えが進まない理由として、自前の発電所が少ない新電力は安定した価格で電気を調達しにくく思い切った値下げができない、原油価格上昇で家庭の電気料金が平均7%近く値上がりし、消費者がメリットを十分に感じられないことが挙げられる。

# 運営委員の齋藤さんが 区長賞を受賞！

もったいない運動えどがわで表彰される

6月1日に開催された江戸川区環境フェアにおいて、江戸川区と環境をよくする地区協議会、えどがわエコセンター主催による「もったいない運動えどがわ区長賞」の授賞式がありました。そこで、足温ネットの運営委員を務める齋藤智子さんが、6名の区長賞受賞者のひとりとして表彰されました。

受賞の対象となった取り組みは、みどりのカーテンです。表彰者の紹介では、「みどりのカーテン伝道師」の見出しとともに、永く取り組んできた経験を活かし、ゴーヤの育て方や効用を広める活動を行い、育った実も活用してゴーヤを使ったレシピを考案する等、幅広い視野で楽しく活動の範囲を広げている、と紹介されています。

この活動は、えどがわエコセンター低炭素社会づくり委員会の「みどりのカーテンモニター」事業として行っています。毎年、500名近い区民にモニターとして参加していただき、みどりのカーテンを育成し、その効果を報告してもらってきました。齋藤さんは、委員会を中心メンバーとして、モニター講習会の講師を務めるとともに、モニターからの様々な意見や質問に対応しています。

もちろん、自宅でも自らゴーヤによるみどりのカーテンづくりに取り組んでいて、毎年窓を覆わんばかりの立派なカーテンに育て上げています。ちなみに、夏場にカーテンの表と陰で表面温度を計測すると7℃も低くなり、エアコンが無くても快適な室内環境を作り出しています。今後も張り切って取り組んでいくことと思います。

(文責:山崎求博 事務局長)

## 齋藤 智子



「みどりのカーテン」の  
伝道師!



みどりのカーテン講習会で話す齋藤さん

## 足温ネット活動日誌

- 3.09 PV-Net「2019 年問題学習会」に参加  
『あしもと通信』Vol.91 を発行
- 3.19 ●第11回運営委員会
- 3.26 日本労働者協同組合・遠藤氏と事業連携打ち合わせ
- 4.12 生活クラブエナジー営業部長と懇談
- 4.23 ●第1回運営委員会
- 4.26 市民電力連絡会 連続講座①「映画『モルゲン、明日』チェルノブイリ 33 年、原発から再エネへ」に参加。講師/山川勇一郎さん(たまエンパワー)、上田マリノさん
- 5.10 早稲田大学坪郷教授から市民電力に関するヒアリング
- 5.14 ●第2回運営委員会
- 5.18 鳥海工業・小松さんから太陽光発電パネルを有償で引き取り
- 5.24 市民電力連絡会 トラブルシェア研究会に参加  
市民電力連絡会 連続講座②「まだまだ増やせるおひさま発電」に参加。講師/林敏秋さん(認定 NPO 法人きょうとグリーンファンド)
- 5.25 足温ネット 2019 年度定時総会&記念ミニシンポジウム
- 6.01 江戸川区環境フェアに出展
- 6.22 市民電力連絡会・連続講座(第3回)「SDGsの視点で考える～持続可能な再生可能エネルギーとは?」に参加。講師:山下紀明さん(ISEP)
- 6.25 ●第3回運営委員会
- 6.28 みんな電力からインタビュー取材。朝日新聞から取材

## 編集後記

さて、この三月で五十歳になった。『論語』の中で孔子は「五十にして天命を知る」などと語っているが、とんと自覚が無い。それどころか人や物事への関心が薄くなり、新しいことに取り組みむのが億劫で仕方がない。もしかしたら若年性？アルツハイマー型認知症などと考えてしまおう。と思っていたら、ある人から「生き字引」との称号を奉られた。「あーそうか、自分にはこれまでの経験や知識があるんだな、それを活かせる活動をあせらずじっくりやっつけていこう」そんな気持ちになり、少しホッとした梅雨の夜である(M.Y.)